

災害ボランティア活動の基礎

第1回

「災害ボランティアセンターについて」

皆さんは「災害ボランティアセンター」って知っていらっしゃるでしょうか？
初めて聞く方や、名前だけは知っている方もいらっしゃると思います。

第1回は「災害ボランティアセンターについて」です。

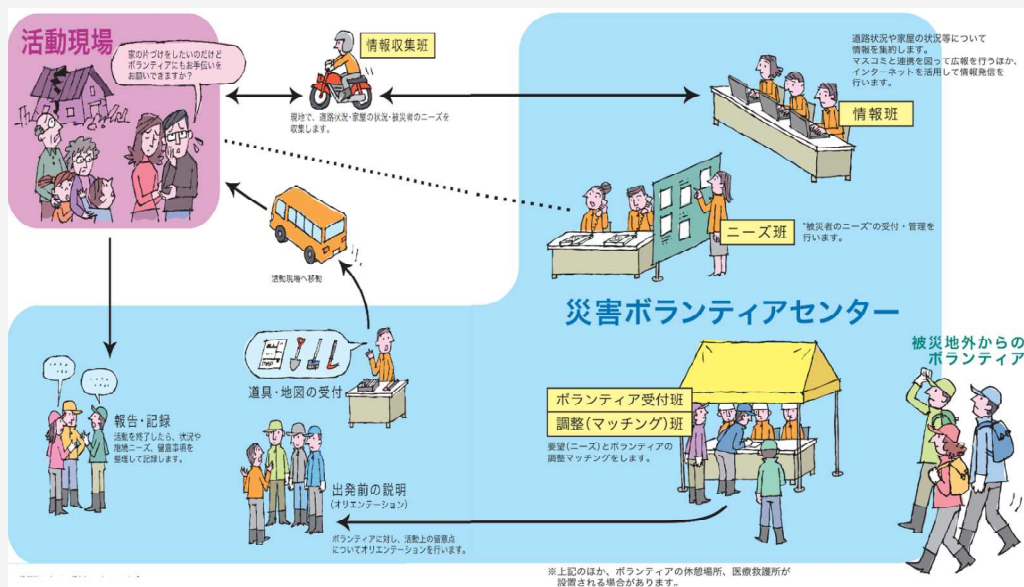
災害発生時には、災害ボランティアの方々が被災地において被災者支援を円滑に行うためには、「ボランティアを希望する被災者」と「災害ボランティア」を結び付ける役割が必要となります。

被災者からのニーズ（助けて欲しい事）を調査し、被災地を訪れる災害ボランティアの方々にボランティア作業の紹介、活動現場までの案内・送迎を行うのが、**災害ボランティアセンター**です。

本県では主に、被災した地域の社会福祉協議会が、共助の精神により自主的に災害ボランティアセンターを立ち上げ、訪れる災害ボランティアを支援しています。

災害ボランティアセンターの仕組み

災害ボランティアセンター（以下、災害VC）の仕組みについて説明します。



1

災害VC受付



災害ボランティア活動を希望する方は、災害VCを訪れて受付をおこないます。

(近年は新型コロナウイルス禍でインターネット上での事前受付や、QRコードなどを利用した当日受付を導入するところもあります。)

2

オリエンテーション



オリエンテーションにおいて、ボランティア活動の流れや心構え、活動上の注意事項などの説明を受けます。

3

マッチング



被災者からのニーズ（助けて欲しい事）と個人ボランティアの調整（マッチング）を行います。様々なニーズがあるので、希望する活動内容を選びます。

4

グルーピング



自分の活動内容が決まったら、一緒に活動するグループを作り、リーダーを決めます。また、グループ内で活動内容の詳細を共有します。

5

資機材の貸し出し



スコップや一輪車など、現地作業に必要な資機材の貸し出しを受けます。

6

活動現場への移動



準備が整ったら、災害VCが用意した送迎車や専用のマイクロバス・ボランティアの自家用車、近ければ徒歩などで、被災した依頼者の家に移動します。

7

ボランティア活動の実施



活動現場についたら、依頼者に作業内容を改めて確認し、現場の安全確認を行い、チーム内で役割分担を決めて作業に取り掛かります。

8

活動終了後



その日の活動が終了したら、災害VCに戻ります。資機材を返却し、リーダーは活動結果を報告します。

以上が、災害VCでの一日の流れになります。

大規模災害時は、被災者家族・被災地域の人達が早く元の生活に戻れるように、地域の社会福祉協議会の職員のほか、他の地域の社会福祉協議会の職員、NPO団体、災害ボランティア団体・行政の職員など、たくさんの方が協力して、災害VCの運営にあたります。

災害VCが、災害ボランティア活動をスムーズに行うために重要な役割を担っていることを分かっていただけたでしょうか？